週刊日本株レポート（1/30～2/3）

～ FOMC結果は買い安心感に繋がるも、週後半は企業業績への警戒感などから上値の重い展開 ～

2023年1月30日作成

1. 日米株式と円／ドルの推移

＜日本株（日経平均）＞

＜米国株（NYダウ）＞

＜円/ドル＞

（注）チャートは過去1年

	単位	2022/12/31	2022/12/31	2023/1/27	過去3年高値		過去3年安値	
		（前年末）	（前月末）	（前週末）	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	26,094.50	26,094.50	27,382.56	30,795.78	2021/9/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ﾄﾞﾙ	33,147.25	33,147.25	33,978.08	36,952.65	2022/1/5	18,213.65	2020/3/23
円/ﾄﾞﾙ	円	131.12	131.12	129.88	151.95	2022/10/21	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場　先週の振り返り

～ 米利上げ停止期待や円安ドル高の進行を背景に上昇 ～

先週の日本株市場は、日経平均が+829.03円（+3.12%）、TOPIXが+55.79イント（+2.90%）となり、米利上げ停止期待や円安ドル高の進行を背景に上昇しました。業種別でみると、鉄鋼、機械、銀行業、化学、繊維製品などの32業種が上昇した一方、海運業の1業種が下落しました。

週前半は、①FRB（米連邦準備理事会）高官が次回FOMC（米連邦公開市場委員会）で0.25%の利上げを支持すると表明したことやウォール・ストリート・ジャーナル紙がFRBが今春の利上げ停止を検討し始める可能性があると報道したことを受け、米国株市場がハイテク株中心に上昇したこと、②為替市場で一時131円台まで円安ドル高が進行したことなどが好感されて上昇しました。週央以降は、利益確定売りの動きや決算シーズンを控えた企業業績への警戒感などが上値を抑制した一方、米GDP（国内総生産）が市場予想を上回ったことによる米景気減速懸念の後退などが下支えとなり、狭いレンジでの推移となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
1月31日	Tue	日本	失業率	12月	2.5%
			鉱工業生産（前月比）	12月	+0.2%
		中国	製造業PMI（購買担当者景気指数）	1月	47.0
			非製造業PMI	1月	41.6
		欧州	ユーロ圏GDP速報値（前期比）	10-12月期	+0.3%
		ドイツ	CPI（消費者物価指数）（前年比）	1月	+8.6%
		国際	IMF(国際通貨基金)世界経済見通し（WEO）公表		
		米国	消費者信頼感指数	1月	108.3
			FOMC（米連邦公開市場委員会）（1日まで）		
2月1日	Wed	欧州	ユーロ圏失業率	12月	6.5%
			ユーロ圏CPI（除食品・エネルギー・たばこ/前年比）	1月	+5.2%
		米国	ISM製造業景況指数	1月	48.4
2月2日	Thu	欧州	ECB（欧州中央銀行）政策理事会		
		英国	BOE(イングランド銀行）金融政策委員会		
		米国	製造業受注（前月比）	12月	▲1.8%
2月3日	Fri	米国	非農業部門雇用者数変化	1月	+223千件
			ISM非製造業景況指数	1月	49.6

決算発表予定　他	国内	決算発表　：	1/30 大東建、日本取引所、塩野義薬、ｺｴﾃｸH、日立物流、中部電力、NRI、NEC、三井住友FG、ｷﾔﾉﾝ、ｶﾌﾟｺﾝ、ｵﾘﾗﾝﾄﾞ、ｵﾑﾛﾝ、大和証G 1/31 小野薬、第一三共、HOYA、東ｶﾞｽ、富士通、ﾏｷﾀ、ｱﾄﾞﾃｽﾄ、JR東日本、JR西日本、TOTO、ｺﾏﾂ、TDK、味の素、ｴﾌﾟｿﾝ、ﾚｰｻﾞｰﾃｯｸ、りそなHD、関西電、商船三井、ZOZO、三井住友TH 2/1 CTC、日立、京ｾﾗ、野村HD、住友化、大塚商会、ｷｰｴﾝｽ 2/2 三菱電、武田薬、ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ、Monot、ｿﾆｰG、村田製、みずﾎFG、KDDI、ｲﾋﾞﾃﾞﾝ、住友電工、ﾛｰﾑ、ｺﾅﾐｸﾞﾙｰﾌﾟ、花王、ANAHD、日本酸素H、ZHLD、JAL、中外薬、MUFG、三菱自 2/3 ｷｯｺｰﾏﾝ、ﾃﾞﾝｿｰ、豊田織、川崎船、丸紅、日本郵船、伊藤忠、三井物、ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸ、ｺﾝｺﾙﾃﾞ、ｴﾑｽﾘｰ、TIS、三菱商、ﾐﾈﾍﾞｱ、豊田通商、ｽｸｴﾆH
	海外	決算発表　：	1/30 NXPｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀｰｽﾞ 1/31 UBSｸﾞﾙｰﾌﾟ、ｴｸｿﾝﾓｰﾋﾞﾙ、ﾌｧｲｻﾞｰ、ｽﾎﾟﾃｨﾌｧｲ、ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ、ｻﾑｽﾝ電子、UPS、GM、ｷｬﾀﾋﾟﾗｰ、ｽﾅｯﾌﾟ、ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･ﾏｲｸﾛ･ﾃﾞﾊﾞｲｼｽﾞ、ｺｰﾆﾝｸﾞ、ｱﾑｼﾞｪﾝ、ｳｴｽﾀﾝﾃﾞｼﾞﾀﾙ 2/1 ｸﾞﾗｸｿ、ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ、Tﾓﾊﾞｲﾙ、ﾒｯﾄﾗｲﾌ、ﾒﾀ･ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑｽﾞ、ｱﾌﾗｯｸ、ﾍﾞﾛﾄﾝ 2/2 INGｸﾞﾙｰﾌﾟ、ｼｪﾙ、ﾒﾙｸ、ﾊﾈｳｪﾙ、ﾄﾞｲﾂ銀行、ｲｰﾗｲﾘﾘｰ、ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ、ﾌｫｰﾄﾞ、ｱｯﾌﾟﾙ、ｱﾏｿﾞﾝ、ｷﾞﾘｱﾄﾞ、ｽﾀｰﾊﾞｯｸｽ、ｸｱﾙｺﾑ、ﾛｼｭ 2/3 ﾘｼﾞｪﾈﾛﾝ･ﾌｧｰﾏ、ｻﾉﾌｨ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場　今週の見通し

～ FOMC結果は買い安心感に繋がるも、週後半は企業業績への警戒感などから上値の重い展開 ～

今週の日本株市場は、FOMC結果は買い安心感に繋がるも、週後半は企業業績への警戒感などから上値の重い展開になるとみます。今週31日・1日に開催されるFOMCでは、利上げ幅が前回の0.5%から0.25%に縮小されるとともに、近く利上げを終了する可能性が示唆されるとみています。これらは、FRBの金融引き締めが終盤にあるとの見方を確認することになり、一定程度株価の押し上げ材料になるとみます。但し、既に市場は利上げ幅の縮小を相応に織り込んでいることや、パウエル議長は金融政策が早期に緩和方向に転じることは否定すると思われることなどから、上昇幅は限られるとみます。またこれらを材料とした買い一巡後は、①本格化する企業業績について円高や米欧景気悪化による悪影響への警戒感があること、②2日のECB理事会がタカ派的なものになる可能性があること、③週末の雇用統計やISM非製造業景況指数を控えた様子見姿勢などから上値の重い展開になるとみます。その他の注目材料としては、日本では31日の鉱工業生産、米国では1日のISM製造業景況指数、欧州では31日のユーロ圏GDP速報値、1日のユーロ圏CPI、中国では31日の製造業/非製造業PMI、国際は31日のIMF世界経済見通しなどが挙げられます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL：https://www.alamco.co.jp
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第301号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント（以下、「当社」といいます。）が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。